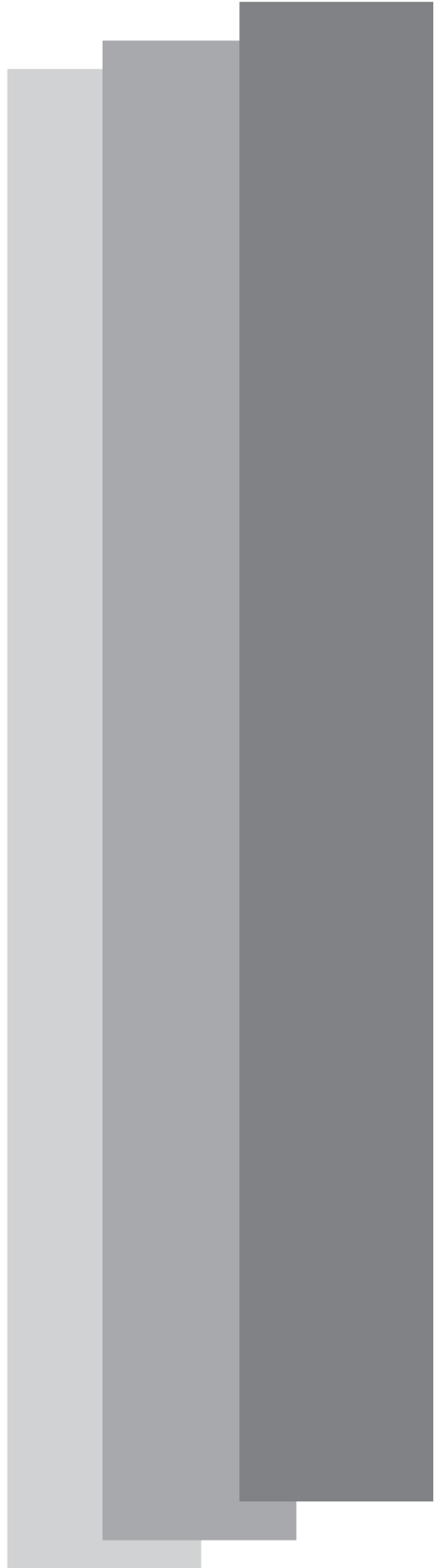


文化史ノート



古典古代の文化

文化の特徴

ギリシア文化は、オリエント先進文明を受容しながらも、ポリス社会の共同生活を背景に、人間的性格の強い、合理的で現世肯定的な文化である。

ヘレニズム文化はアレクサンドロス大王の東西融合政策とギリシア人の盛んな東方移住の結果成立した融合文化である。東方移住で人口が減少したポリスが衰退し、専政体制が採用されてポリスの政治的役割も低下したため、ポリス帰属意識が喪失し、世界市民主義<コスモポリタニズム>と個人主義が時代思潮となった。

地中海に覇権を打ち立てた前2世紀頃から、本格的に先進のギリシア・ヘレニズム文化を受容し始めたローマは、精神面ではギリシア文化の模倣に終わり、またギリシア人が多く文化面で活躍した。「武力で征服されたギリシア人が、文化ではローマ人を征服した」(ホラティウス)。しかし大帝国維持のための法整備や土木建築の実用面では独創性を発揮した。またキリスト教を国教とすることによってヨーロッパ世界にキリスト教がひろがることになったことも重要である。「ローマは三度世界を征服した。剣・キリスト教・そしてローマ法によって」(19世紀ドイツの学者イエーリング)

宗教【ギリシア】

- ・人間的な神で特定の経典や特権的神官層が存在せず
→人間的で現世肯定的なギリシア文化の背景
- ・ゼウス神…オリンポス12神の中心。四年に一度のオリンピアの祭典
- ・アポロン神…太陽神。予言の神。デルフォイの神託
- ・アテナ女神…知恵の神。アテネの主神→パルテノン神殿のアテナ女神像(フィディアス作)
- ・ディオニソス神…酒と豊穡と演劇の神

【ローマ】

- ・ゼウス=ジュピターのようにギリシアの神と自民族の神を同一視
- ・イランよりミトラ教のような密儀宗教流入→一方でキリスト教誕生し拡大

文学【ギリシア】

叙事詩

- ・ホメロス(前8世紀)…最大・最古・盲目の詩人で口承叙事詩として創作
「イリアス」…トロヤ戦争の英雄叙事詩
「オデュッセイア」…トロヤ戦争の英雄オデュッセウスの帰還の物語
- ・ヘシオドス(前7世紀)…平民で、平民台頭の世相を背景
「労働と日々」…貴族を批判し、労働賛美(ギリシアにおいては例外的)
「神統記」…ギリシア神話を体系づける

叙情詩

- ・サッフォー(前6世紀)…レスボス島出身の女流恋愛詩人
- ・アナクレオン(前6世紀)…酒と女性を賛美した叙情詩人。後世に影響
- ・ピンダロス(前5世紀)…オリンポス祭典の競技者を賛美

演劇詩

- ◎前5世紀に発達。隣保同盟間の祭典やオリンポスの祭典に際し、野外劇場で上演
- ◎三大悲劇詩人
 - ・アイスキュロス「アガメムノン」
 - ・ソフォクレス「オイディプス」…ペリクレスと交友
 - ・エウリピデス「メディア」
- ◎喜劇詩人
 - ・アリストファネス…平和主義者、保守主義者で時事的・政治的風刺劇
「女の平和」…ペロポネソス戦争批判
「雲」…ソクラテスをソフィストの代表として批判・他の作品に「女の議会」「蜂」

【ローマ】

◎三大詩人…アウグストゥス帝期でラテン文学の黄金時代

- ・ヴェルギリウス「アエネイス」…ローマ建国の叙事詩。ダンテ「神曲」で導師として登場
- ・ホラティウス「叙情詩集」…サッフォーやアナクレオンの影響
- ・オウィディウス「転身譜」…ギリシア神話の変身物語を集成。他に「愛の歌」

◎散文

- ・キケロ…カエサル政敵。雄弁・名文家。ラテン語散文を確立。「国家論」「友情論」

哲学【ギリシア】

自然哲学

◎イオニア地方のミレトス中心。万物の根源追及を特色

前6世紀

- ・タレス…ミレトスの人。イオニア自然哲学の創始者。万物の根源を“水”。日食予言
- ・アナクシマンドロス…ミレトスの人。万物の根源を“無限（トアペイロン）”
- ・アナクシメネス…ミレトスの人。万物の根源を“空気”
- ・ピタゴラス…万物の根源を“数”。ピタゴラスの定理
- ・ヘラクレイトス…万物の根源を“変化”とし、象徴を火。「万物は流転する」

前5世紀

- ・アナクサゴラス…アテネで活躍のペリクレスの友人。太陽を燃える石と断言
- ・デモクリトス…万物の根源を“原子”とする唯物論

ソフィスト

◎直接民主政を背景に弁論・修辞術教授の職業的教師。アテネで活躍し在留外国人が多い
懐疑主義的で普遍的真理を否定し、主観の絶対を説く→詭弁に

前485頃-前415頃 …相対主義に立脚し、「人間は万物の尺度」と説く

プロタゴラス …最初のソフィスト（知恵有る者）でペリクレス時代に活躍

三大哲学者

前469頃-前399 …ソフィスト批判し普遍的真理の実在主張。

ソクラテス …対話法で無知を自覚させる。「汝自身を知れ」→衆愚政下のアテネで処刑

前469頃-前399 …イデア説（現実とは完全不滅の真実イデアの影）

プラトン …哲人政治をシラクサで試み、失敗・アカデメイアの学園創設・「国家論」

前469頃-前399 …ギリシア最大の体系的哲学者。リュケイオンに学園。「形而上学」

アリストテレス …アレクサンドロスの師・イスラム哲学に影響→スコラ哲学に影響

【ヘレニズム】

◎世界市民主義と個人主義の思潮のもと、個人の心の平安に関心

犬儒（キュニコス）派…ディオゲネスが代表。世俗的栄華を否定

ストア派…ゼノン創始。禁欲による心の平安を説く

エピクロス派…エピクロス創始。心の平静を快楽とし、快楽を主張

【ローマ】

◎ストア派…実践哲学として発展

- ・セネカ…ネロ帝の師
- ・エピクテトス…ギリシア人解放奴隷。死後弟子が「語録」
- ・マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス…哲人皇帝。「自省録」（ギリシア語で記述）

◎エピクロス派

- ・ルクレティウス…「物体の本性」共和政期で、近代の唯物論に影響

◎新プラトン主義…世界の創造を超越的絶対者の流出（自己展開）と説く

- ・イスラム神秘主義スーフィズムや、西欧の神秘主義に影響
- ・プロティノス（3世紀）…新プラトン主義の大成者

歴史

【ギリシア】

ヘロドトス「歴史」…ペルシア戦争を物語的記述。“歴史の父”“エジプトはナイルの賜物”
トゥキディデス「歴史」…ペロポネソス戦争を批判的記述

【ローマ】

ポリビオス「歴史」…政体循環論。ギリシア人で小スキピオの教師。第三次ポエニ戦争見聞
リヴィウス「ローマ建国史」…アウグストゥス帝に仕える

カエサル「ガリア戦記」…古ゲルマン・ケルト人研究の重要史料

タキトゥス（1世紀中頃-2世紀初）

- ・「ゲルマニア」…ゲルマン人を称え、ローマ人を諷める。古ゲルマン研究史料
- ・「年代記」…共和政思慕。ネロ帝のキリスト教徒迫害を記録

プルタルコス（1世紀中頃-2世紀初）「対比列伝」…ギリシア人でギリシアとローマの英雄対比
エウセビオス「教会史」…最初の教会史家。コンスタンティヌス帝に仕え、神寵帝理念

美術

【ギリシア】

彫刻…人間の肉体の理想を追究

- ・ミュロン…躍動する肉体を初めて表現
- ・フィディアス…ペリクレスの友人。パルテノン神殿の再建監督。本尊のアテナ女神像製作
- ・ポリクレイトス…「槍をかつぐ人」などオリンポス祭典の競技者像
- ・プラクシテレス…前4世紀にアテネで活躍。「ヘルメス像」。ヴィーナス像製作で有名

建築

- ・ドーリア式…簡素で荘重。パルテノン神殿が代表
- ・イオニア式…優雅。渦巻き式柱頭。アテネのエレクトイオン神殿
- ・コリント式…繊細。ヘレニズム期に流行

【ヘレニズム】

彫刻…調和・均整よりも肉体を写實的に、あるいは官能的にとらえる

- ・「ミロのヴィーナス」…ミロ島出土の女性裸像
- ・「ラオコーン」…トロヤ戦争のエピソードを題材
- ・「瀕死のガリア人」…ペルガモンの出土

【ローマ】

建築…アーチ形式の使用特徴で公共建造物建設

- ・円形闘技場＜コロッセウム＞○万神殿＜パンテオン＞
- ・凱旋門…勝利した将軍を迎える
- ・カラカラ浴場…カラカラ帝建設の浴場主体の一大娯楽施設
- ・アッピア街道…ローマ最古の板石舗装道路
- ・ガール橋…フランス東南部に現存する代表的水道橋

科学

【ギリシア】

ヒッポクラテス…小アジア出身の医学の父

【ヘレニズム】

◎エジプトのアレクサンドリアのムセイオン（王立研究所）中心

エウクレイデス（ユークリッド）平面幾何学“幾何学に王道なし”

アルキメデス…シラクサ出身。浮体の原理。第二回ポエニ戦争でローマ兵に殺害

エラトステネス…大地球体説で、地球の周囲（子午線）の長さ測定

アリストアルコス…地球の自転・公転。地動説

【ローマ】

ストラボン…ギリシア人。小アジアで活躍。「地理誌」

プリニウス「博物誌」…博物学者で百科辞典。ヴェスヴィオス火山爆発時に殉職

プトレマイオス…ギリシア人。「アルmageスト」で天文学を集成

→イスラム世界を経て中世ヨーロッパに影響。**天動説**を採用。世界地図製作も有名
ガレノス…ギリシア人医師。解剖学。マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝の侍医

ローマ法

…ローマが後世に残した最大の文化遺産で十二表法に始まる

…裁判官の判決例や、法律家の解釈なども法としての権威を認められる

○市民法…共和政・帝政初期に作られた、市民権所有者に適用される法

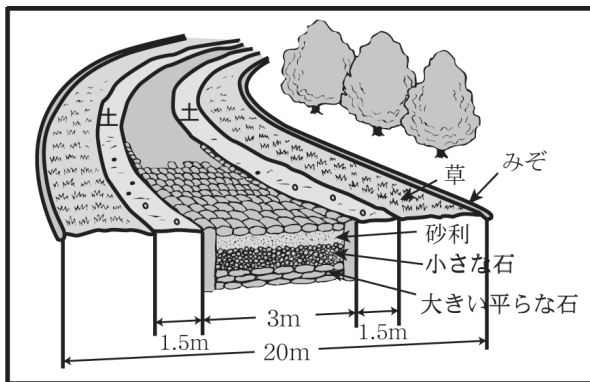
○万民法…カラカラ帝の全自由民への市民権拡大により、帝国全住民に適用される法

ローマ法大全

…勅法集・学説集・法学理論で構成のローマ法の集大成の法典

…ユスティニアヌス帝が編纂命じ、トリボニアヌスら編集

【アッピア街道】



「全ての道はローマに通じる」ローマは、征服した土地の支配維持のためにも、ローマ軍団の交通のために軍道の建設に熱心であった。ローマの主要道路は、大地を1.5-3メートルほども掘り下げ、一番下に大きめの割石や切石で路床を造り、その上にまず小石や碎石を混ぜたコンクリート、次に砂利や石灰を混ぜたコンクリートと重ね、最後に切石で舗装して造られた非常に堅固なものであった。

中世の文化

文化の特徴

800年のカール大帝の戴冠によってビザンツ帝国から自立し、成立した中世西欧世界は、皇帝権と教皇権を中心とするキリスト教共同体であり、中世文化はキリスト教を中心とし、担い手もキリスト教の聖職者であった。その結果新約聖書の言葉として聖職者の共通語となったラテン語が学術語・公用語として用いられ、民族や国家などによる文化の地域差があまりない、普遍的性格が強い文化となった。その西欧文化が飛躍的に発展するのは、12世紀ルネサンスによってである。11世紀の温暖化と、三圃制農業や有輪犁など農業技術の進歩によって拡大に転じた西欧世界は、レコンキスタや十字軍によって先進のイスラム文化やビザンツ文化と接触し、イスラム世界やビザンツ世界に保存されていた古典古代の文化を学び、イスラム世界で発展した幾何学や錬金術など自然科学の基盤を導入することで、文化的な成長を遂げる。また、この頃から俗語で歌われ、文章化されていた騎士道物語などの英雄叙事詩や、南仏や南独の宮廷を遍歴して恋愛を歌った吟遊詩人などのように、教会を離れた文化も発生した。

神学

◎学問の中心“哲学は神学の婢”

◎カロリング＝ルネサンス

- ・カール大帝による文芸復興。修道院を中心に古典古代文化再建の努力
- ・アルクイン…イングランド出身。カール大帝に招かれ、アーヘンへ。

◎12世紀ルネサンス

- ・十字軍とレコンキスタで先進イスラム文化とビザンツ文化流入
- ・カスティリャ王国のトレド征服→トレドでアラビア語のアリストテレス文献の翻訳
→スコラ哲学発生

◎スコラ哲学

- ・アンセルムス
スコラ哲学の祖で、神などの観念が事物に先行する实在論を唱え、信仰を重視
→「信ずるために知ることを求めず、知らんがために信ず」
- ・アベラール…個々の事物が先に存在するという名目論を唱え、实在論と普遍論争
- ・トマス＝アキナス…アリストテレス哲学導入「神学大全」でスコラ哲学大成
- ・ロジャー＝ベーコン…確かな認識は経験や実験でえられるとし、経験を重視
- ・ドゥンス＝スコトゥス…意志の優位を唱える
- ・ウィリアム＝オッカム…名目論を唱え、理性を重視し、スコラ哲学を解体

大学

◎教会・修道院を母体に12-13世紀発生

- ・アルプス以南は学生、以北は教員中心にギルド的共同体（ユニヴェルシタス）で運営
- ・四学部（神学・法学・哲学・医学）と七自由科（文法・修辞・論理、数学・音楽・幾何・天文）
- ・ボローニャ大学…11C末成立の北伊の西欧最古の大学。法学有名
- ・サレルノ大学…12Cイスラムの影響を受け南イタリアに成立。医学有名
- ・パリ大学…12Cフランス。神学の最高権威
- ・オックスフォード大学…12Cイギリス。パリ大学を範。神学中心
- ・ケンブリッジ大学…13Cイギリス。オックスフォードより分離。神学中心
- ・プラハ大学…ドイツ語圏（現在はチェコの首都）最初の大学。神学→フスが総長に

建築

◎ビザンツ様式…ドームとモザイクが特徴

- ・ 聖ソフィア聖堂…ユスティニアヌス帝が再建
- ・ 聖ヴィターレ聖堂…「ユスティニアヌス帝と廷臣」のモザイク画，ラヴェンナに所在

◎ロマネスク様式…10 C末発生。石造りの平天井で壁面で重量を支える→荘重。十字架状の構造

- ・ ピサ大聖堂…斜塔で有名

◎ゴシック様式…12 C北仏で発生。曲面天井→大きな窓を可能→尖頭アーチとステンドグラス特徴

- ・ ケルン大聖堂…ライン流域都市でローマ植民市に起源
- ・ ノートルダム大聖堂…フランス，パリの代表的建築物

文学

◎吟遊詩人が俗語で，騎士道物語や恋愛詩を宮廷などで吟じる

ドイツではミンネジガー，南仏ではトルバドゥール

- ・ 「ベーオウルフ」…7-8世紀成立。古代英語で記述の最初の英雄叙事詩
- ・ 「ニーベルンゲンの歌」…ドイツ。ブルグンド族の英雄ジークフリート主人公
- ・ 「ローランの歌」…フランス。カール大帝のイスラム遠征が舞台。
- ・ 「アーサー王物語」…イギリスと北フランス。ケルト人の伝説の王アーサー主人公
- ・ 「サガ」「エッダ」…北欧ノルマン人の神話英雄叙事詩
- ・ 「アベラールとエロイズ」…中世ラテン文学の書簡文学

近世西欧の文化 I

文化の特徴

ルネサンス（フランス語で「再生」の意）は古代ギリシア・ローマ文化（古典古代文化）の復活を目指した文化運動である。古典の復興と研究を通じて、現世を肯定し、自我に目覚め、自分の目で物を見、自分の心で物を考える人間像を追求した人文主義を指導理念に、14-16 世紀に展開した。十字軍以来の東方貿易で富を蓄えた都市の富裕層が存在し、無統一に起因する政治混乱と経済・社会の変化による中世的価値観の動揺から新しい生き方を求められたイタリアの都市で発生し、ビザンツ帝国からの移住者と、シチリア島から流入した先進イスラム文化に助長された。14-15 世紀はフィレンツェ、16 世紀前半ローマ、16 世紀中期以降ヴェネツィアが中心となった。

しかしイタリアのルネサンスは、神聖ローマ帝国（ハプスブルク家）とフランスのイタリア戦争の舞台となってイタリア都市が荒廃したこと、商業革命以降世界貿易の中心が大西洋岸都市に移ったことなどにより急速に衰退する。そしてイタリアより約 1 世紀遅れて始まったアルプス以北のルネサンスは、絶対王政の成立とともに、絶対主義時代の宮廷文化へと転換していく。しかし、17 世紀にピューリタン革命、名誉革命が起こり、立憲王政が確立したイギリスでは、市民文化も成長。18 世紀になると、理性に信頼をおいて絶対王政の矛盾を攻撃する啓蒙思想の時代がやってくるのである。

文学

【ルネサンス文学】…人文主義による古典古代の再生と社会風刺

◎イタリア… いずれもフィレンツェにゆかりの人

- ・ダンテ「神曲」…14 世紀。トスカナ方言（現イタリア語のもと）で記述し、国民文学の祖
→案内人にヴェルギリウスとベアトリーチェ
- ・ペトラルカ「カンツォニエーレ」…14 世紀。トスカナ語叙情詩の傑作で、恋人ラウラへの思慕
→人文主義運動の指導者として、ラテン語・ギリシア語研究も有名
- ・ボッカチオ「デカメロン」…14 世紀。トスカナ語小説の傑作で、聖職者など風刺
- ・マキャヴェリ「君主論」…15 世紀。道徳と政治を分離、「獅子の勇気と狐の狡知」を説く

◎ネーデルラント

- ・エラスムス「愚神礼賛」…腐敗した教会を風刺し、宗教改革を準備
→ギリシア語原典より新約聖書を研究し、宗教改革に刺激（宗教改革には中立）

◎フランス

- ・ラブレー「ガルガンチュア物語」…“ したいようにせよ ” スローガンに社会風刺
- ・モンテーニュ「随想録（エッセイ）」…人間観察のモラリスト

◎イギリス

- ・チョーサー「カンタベリ物語」…14 世紀ボッカチオの影響
- ・トマス＝モア「ユートピア」…16 世紀。“ 羊が人間を食う ” と第一次囲い込み運動批判
→エラスムスの友人で、ヘンリ 8 世の大法官となるも、離婚に反対し処刑
- ・スペンサー「神仙女王」…16 世紀の叙情詩人。エリザベス女王賛美
- ・シェークスピア…「ハムレット」「リア王」「マクベス」「オセロ」の四大悲劇
→他に「ヴェニスの商人」等喜劇や「ジュリアス＝シーザー」等史劇

◎スペイン

- ・セルバンテス「ドンキホーテ」…騎士階級風刺。最初の近代小説

【絶対王政】

◎フランス古典主義文学…ギリシア・ローマの詩劇を範。ルイ 14 世時代

- ・コルネイユ「ル＝シッド」…悲劇作家
- ・ラシーヌ「フェードル」…悲劇作家
- ・モリエール「タルチェフ」「守銭奴」…喜劇作家

◎イギリス市民文学…市民革命と市民階級の成立背景

- ・ ミルトン「失樂園」…17世紀ピューリタン文学。共和国書記で革命擁護、王政復古後執筆
- ・ バンヤン「天路歷程」…17世紀ピューリタン文学。革命軍兵士から復古後聖職者
- ・ デフォー「ロビンソン＝クルーソー」…18世紀。市民階級の価値観肯定
- ・ スウィフト「ガリバー旅行記」…18世紀。徹底的な社会批判。人間批判。

建築

【ルネサンス】

◎ルネサンス様式…丸屋根（ドーム）と列柱が特徴

- ・ サンタマリア大聖堂…フィレンツェ。ブルネレスキ設計でドームが有名
- ・ サンピエトロ大聖堂…ローマ。ブラマンテ設計。ミケランジェロが縮小施工
→宗教改革の原因に

【絶対王政】

◎バロック様式…17世紀。豪壮華麗

- ・ ヴェルサイユ宮殿…ルイ 14 世建立

◎ロココ様式…18世紀。繊細優美

- ・ サンスーシー宮殿…フリードリヒ 2 世ポツダムに建立

美術

【ルネサンス】…人間の肉体美の再発見と遠近法による絵画技法の確立

◎イタリア

- ・ ジオット「聖フランチェスコの生涯」…13世紀末より活躍
- ・ マザッチョ…ブルネレスキ（建築）ドナテルロ（彫刻）と遠近法を開発
- ・ ボッティチェリ「ヴィーナスの誕生」「春」…フィレンツェで活躍
- ・ レオナルド＝ダ＝ヴィンチ「モナリザ」「最後の晩餐」
→万能の天才、最後は仏フランソワ 1 世の宮廷画家
- ・ ドナテルロ…ルネサンス前期を代表する彫刻家
- ・ ミケランジェロ…絵画で「天地創造」「最後の審判」。彫刻で「ダヴィデ」「ピエタ」
- ・ ラファエロ「聖母子像」「アテネの学堂」…ダ＝ヴィンチ、ミケランジェロと並ぶ三大画家

◎ネーデルラント

- ・ ファン＝アイク兄弟…油絵の技法開発。肖像画と宗教画
- ・ ブリュエール…ベルギーの国民的画家。農民を描く

◎ドイツ

- ・ デューラー…「四使徒」など宗教画・重く沈んだ画風
- ・ ホルバイン「ヘンリ 8 世像」「エラスムス像」…イギリスに渡り活躍

【絶対王政】

◎バロック絵画

- ・ エル＝グレコ「聖母昇天」…肖像画。宗教画。スペインで活躍のギリシア人
- ・ ベラスケス…スペイン宮廷画家「女官たち」
- ・ ルーベンス…バロックを代表する画家でネーデルラントの外交官でもあった
- ・ ファン＝ダイク「チャールズ 1 世像」…ルーベンスの弟子でイギリスで活躍
- ・ レンブラント「夜警」…オランダ盛期の市民生活を描く。光と影の強調
- ・ フェルメール…17世紀オランダのデルフトの画家、風俗画を代表、光と色の調和

◎ロココ様式

- ・ ワトー「シテール島への船出」…貴族の宴会風景などを描く
- ・ ブーシェ「ポンパドゥール夫人」…貴族の肖像画や神話画など

近世西欧の文化 II

文化の特徴

現世の価値を肯定したルネサンスの精神は、現世の探求に人々の関心を向けさせ、東方のイスラム世界の知的刺激とあいまって自然科学が発達し始めた。特に 17 世紀は科学革命の世紀となる。

一方、ウィリアム＝オッカムによる信仰と理性の分離は、理性によって世界を把握しようとする哲学の神学からの分離をもたらした。その方法論に、演繹法を取る大陸合理論と、帰納法を取るイギリス合理論が現れ、両者はドイツ観念論の創始者カントによって批判的に統合される。

また、主権国家体制への移行が進み、国家の役割が重要になるにつれ、国家や公共をめぐる議論が盛んになった。国王は王権神授説で武装して皇帝権や教皇権からの自立と国王主権の擁護を図ったが、それに対しキリスト教思想を援用しつつ自然権の思想が説かれ、社会契約説は国民国家の思想に道を開いていく。

科学

◎ルネサンス三大発明…原型は中国の宋

- ・火薬…騎士階級の没落加速
- ・羅針盤…14 世紀イタリアで改良され、大航海時代準備
- ・活版印刷術…15 世紀中頃グーテンベルク（13 世紀高麗のものが世界初）
→製紙法の普及と相まって宗教改革や新思想の伝達に大きな貢献

◎天文学の革命…地球球体説、地動説によるカトリック教会教義からの解放

- ・コペルニクス…16 世紀地動説。ポーランドの聖職者
- ・ジョルダーノ＝ブルーノ…16 世紀地動説と汎心論を主張し火刑となったイタリアの学者
- ・ガリレイ…17 世紀望遠鏡で天体観察し、地動説。物体落下の法則
- ・ケプラー…17 世紀。遊星運行の法則で地動説を数学的に実証

◎科学革命…17 世紀以降科学知識の体系が確立“知識は力なり（F＝ペーコン）”

- ・パスカル…17 世紀仏。確率論。圧力に関する法則
- ・ハーヴェー…17 世紀英。血液循環立証
- ・ボイル…17 世紀英。気体力学でボイルの法則
- ・ニュートン…17 世紀英。万有引力の法則「プリンキピア」微積分法、光の波動説否定
- ・ラヴォワジエ…18 世紀仏。質量不変の法則
- ・ラプラス…18 世紀仏。星雲説。宇宙進化論
- ・リンネ…18 世紀スウェーデン。植物分類学
- ・ジェンナー…18 世紀英。種痘法

哲学

◎イギリス経験論…個々の経験や実験を重視→帰納法

- ・フランスシス＝ベーコン「新オルガヌム」…個々の具体的事物の観察から出発する帰納法
- ・ホブズ…哲学では唯物論主張
- ・ロック「人間悟性論」…認識の源泉を感覚と経験とする経験論哲学
- ・ヒューム「人性論」…懐疑論をエッセーの形で発表

◎大陸合理論…感覚や経験を排し、数学的な論理的思考を重視→演繹法

- ・デカルト「方法序説」[我思う、故に我在り]…一つの真理から推論を展開する演繹法
- ・パスカル「パンセ」…カトリック信仰に立つ合理論で「人間は考える葦」
- ・スピノザ「エチカ（倫理学）」…汎神論で自然そのものを神とみなすユダヤ人哲学者
- ・ライプニッツ…单子論（モノイド論）で科学と宗教の統一をはかる

◎ドイツ観念論…イギリス経験論と大陸合理論を批判的に統合

- ・カント「純粹理性批判」…批判哲学で人間の認識の限界をさぐる

君主の権力は神から授けられた絶対のものであり、いかなる制限も受けないとする思想
エウセビオスの神寵帝理念や、その影響を受けた皇帝教皇主義などに由来

◎思想家

- ・ボーダン…16世紀ユグノー戦争に際し『国家論』で**国家主権**を説いた仏の政治学者
- ・フィルマー…17世紀チャールズ1世に仕えた英の学者、『族父長論』
- ・ボシュエ…17世紀ルイ14世に仕えた聖職者で王権神授説の代表、国家教会制度確立

◎体现者

- ・ジェームズ1世…著作に『自由なる王国の真法』
- ・ルイ14世…朕は国家なり

国家およびその法に先立ち、個人に本来的に備わり、侵されることのない諸権利
天賦人権・基本的人権

- ・グロティウス…17世紀自然法に基づく国際法の必要を説いた「国際法の父」
『海洋自由論』…公海自由の原則
『戦争と平和の法』…三十年戦争の悲惨から国際法提唱

社会・国家形成の原理を、自然権を有する個人間の契約に求める学説

- ・ホッブズ…清教徒革命期、**社会契約説**に立ちながら絶対王政擁護
『リヴァイアサン』…人間の自然状態を「万人の万人に対する闘争」
→国民は社会契約時に自然権を国王に譲渡
- ・ロック…**名誉革命**を弁護・アメリカ独立革命に影響を与える
『市民政府二論』…**抵抗権**（政府を取り替える権利）を主張
→政府は国民から自然権運用の信託をうけた代表で主権者は国民とする

人間や自然に対する合理的・科学的認識による理性の力で、人類の普遍的進歩を図る
絶対主義体制の矛盾とカトリック教会による思想統制を批判し、18世紀のフランスで開花

- ・モンテスキュー…**三権分立**の必要を説く
『法の精神』…英の立憲政治賞賛し三権分立主張
『ペルシア人の手紙』…仏の社会批判の風刺小説
- ・ヴォルテール…特権階級・カトリック教会批判；フリードリヒ2世と交流
『哲学書簡』（イギリス通信）…英の制度紹介：中国の科学・朱子学も賛美
- ・ルソー…フランス革命に最も影響；「自然に帰れ」をモットーとしロマン主義の先駆
『人間不平等起源論』…自由平等・主権在民
『社会契約論（民約論）』…直接民主制主張
『エミール』…教育論
- ・ディドロ…「百科全書」編集の中心の文学者；エカチェリーナ2世と交流
- ・ダランベール…「百科全書」編集の協力の数学者・哲学者；総序文執筆
- ・レッシング…『賢者ナータン』で宗教対立に寛容を説いたドイツの啓蒙主義者
- ◎**重農主義**…国富の源泉を農業とし、**レッセ・フェール**（なすにまかせよ）で自由主義経済主張
 - ・ケネー…仏：『経済表』を著し経済学の祖。ルイ15世の宮廷外科医
 - ・テュルゴー…仏：ケネーの弟子でルイ16世初期の財務長官

近代西欧の文化

文化の特徴

18世紀末から、産業革命（工業化）と市民革命の二重革命によって近代社会が成立していくと、文化の担い手として市民が登場する。市民（ブルジョワ）文化の時代の幕開けである。文化思潮としては、理性を尊重した啓蒙の時代に対する反発もあって、19世紀前半は感情を重視するロマン主義の時代となる。また、国民主義に民族主義の要素が加わって、民族国家の建設が求められたため、人類に普遍的な価値観を追求した啓蒙主義と対照的にロマン主義では民族的伝統が重視された。しかし、ウィーン体制が崩壊した19世紀後半になると、現実を軽視しがちであったロマン主義に対する反発もあって、現実を直視しようとする写実主義や自然主義が文学において盛んとなり、19世紀末には一転して耽美主義や象徴主義が登場した。絵画では、19世紀末になると、ルネサンス以来の遠近法によって規定された絵画手法と決別する最初の試みとして、印象派の運動が起こる。

そして第一次世界大戦によって、近代社会の価値観や、科学と進歩に関する決定的な疑問が生じると、新たな価値観を模索する試みの中から、様々な現代芸術が登場するのである。

一方、第一次世界大戦後、いち早く大衆消費社会の到来を迎えたアメリカ合衆国では、ジャズや映画などの大衆文化が花開き、世界に影響を与えていく。

近代文学

疾風怒濤

18世紀末のドイツで起こった文学革新運動、シュトゥルム＝ウント＝ドランク

啓蒙主義の理性偏重に反対し、社会の旧習や世俗的道德を批判、個性尊重と感情の解放を主張

- ・ゲーテ…ドイツを代表する文豪で若き日に疾風怒濤、成熟して古典主義へむかう
『若きヴェルテルの悩み』友人の婚約者に恋愛し、主人公は自殺。青春文学の傑作
- ・シラー…ゲーテと並び称されるドイツの国民的詩人、疾風怒濤から古典主義へ
『群盗』主人公は強盗団の首領となって社会変革をこころみる

古典主義

疾風怒濤を主張したゲーテやシラーが移行、ギリシア・ローマの芸術を範とする
知性と感情の調和した理想的人間像を重視

- ・ゲーテ…ヴァルミーの戦いに、ここから、そしてこの日から世界史の新しい時代が始まる
『ファウスト』悪魔メフィストフェレスと契約したファウスト博士の伝説に取材
- ・シラー…ワイマールに赴きゲーテと友情を結び、共に古典主義を確立
『ワレンシュタイン』三十年戦争の皇帝軍司令官ワレンシュタインの野心と没落
『オルレアンの乙女』百年戦争で活躍したフランスのジャンヌ・ダルクを描く歴史劇
『ウィルヘルム＝テル』スイス独立運動の伝説の英雄に取材

ロマン主義

啓蒙主義の理性偏重と人類共通の普遍的価値の主張に対し、感情と民族的価値の尊重を説く
19世紀前半の民族主義の台頭に影響。過去賛美の伝統主義と、人間性解放や社会変革の両面性

- ・ノヴァーリス…ドイツ・ロマン派を代表する詩人、初期ロマン派を形成
『青い花』夢で見た青い花を求め旅に出て、青い花に面差しの似た少女と出会う
- ・ハイネ…改宗ユダヤ人で愛を歌う叙情詩人であり、体制を批判する革命的民衆詩人
『歌の本』青年期の詩集 音楽性豊かな恋愛詩、ドイツ歌曲の傑作に歌詞として採用
- ・グリム兄弟『グリム童話集』で口承説話を集成、音韻研究から比較言語学の方法論確立
- ・スタール夫人…ドイツ・ロマン主義をフランスに紹介 ネッケルの娘
- ・ユゴー…フランス＝ロマン主義の指導者 第二帝政を批判し亡命
『レ＝ミゼラブル』大革命以降の激動の時代を、社会の犠牲者の人間愛で描く
- ・バイロン…イギリス・ロマン主義の代表的詩人。ギリシア独立戦争に参加
『チャイルド＝ハロルドの遍歴』青年の異国遍歴をえがく長編物語詩

- ・スコット…イギリス = ロマン主義の詩人・小説家で歴史に題材
『湖上の美人』湖上の小島に住む美姫をめぐる勇士たちの恋と武勇の物語詩
『アイバンホー』リチャード1世の時代を背景に勇士アイバンホーが活躍する歴史小説
- ・ホーソン…アメリカのニューイングランドの出身でニューイングランドの歴史に題材
『緋文字』1640年代のボストン・ピューリタン社会を姦通罪を犯した女性を通じ描写
- ・ホイットマン…アメリカ・ロマン主義の民主主義詩人で物質万能の世相を批判『草の葉』
- ・マーク＝トウェイン…アメリカの国民作家で南北戦争後の社会を“金ピカ時代”
『ハuckleベリー＝フィンの冒険』西部のほら話の伝統の上に口語体の国民文学確立
- ・プーシキン…ロシア・ロマン主義を代表 ロシア国民文学の創始者 デカブリストに共感
『大尉の娘』プガチョフの乱に取材した歴史小説

ロマン主義の理想・感情重視と現実の軽視に対し、醜悪面も含めて現実を描写することを主張
ウィーン体制崩壊と産業革命の進展による社会の変化を背景

- ・スタンダール…フランス写実主義の先駆者、青年期にナポレオン戦争に参加
『赤と黒』副題は「1830年代史」王政復古期の世相を背景に青年の野心と挫折
- ・バルザック…フランス写実主義の先駆者、作品群によって社会総体の再現を意図
『人間喜劇』『ゴリオ爺さん』を含む諸作品の総称で、独立した作品が他の作品と関連
- ・フロベール…フランス写実主義の確立者「ボヴァリー夫人は私だ」
『ボヴァリー夫人』副題「地方風俗」田舎医者妻の不倫と自殺
- ・ディケンズ…イギリスの下層社会を哀歓を持ってリアルに描き社会の不正を指摘
『二都物語』フランス革命時代のロンドンとパリを舞台 『オリヴァ・トゥイスト』孤児主人公
- ・サッカレー…イギリス上流社会を風刺、ディケンズと19世紀イギリス文学を代表
『虚栄の市』上流社会の虚栄と俗物根性を批判
- ・ゴーゴリ…ロシアの小説家・劇作家 社会や人間の醜悪面を笑いと涙で描写
『死せる魂』死んだ農奴の権利を集めて詐欺を計画する人物を通じて社会の病理を摘出
- ・トゥルゲーネフ…大地主の家に生まれ、ロシアの知識人の苦悩を描く
『獵人日記』農奴制下のロシア農民を写実的に描写し、農奴解放に影響
『父と子』既存の価値を否定する「ニヒリスト」の子の世代と父の世代の対立
- ・トルストイ…ロシア写実主義の大家で人道主義的見地から日露戦争にも反対
『戦争と平和』ナポレオン戦争を背景に壮大な人物群像の物語が展開
- ・ドストエフスキー…人間存在の根本問題を追求したロシア文学の世界的巨匠
『カラマーゾフの兄弟』神と人間の根本を思索した世界文学の傑作

写実主義をさらに徹底し、遺伝学など自然科学の成果を小説に導入することを主張
科学技術の進歩を礼賛する当時の社会風潮を反映、ゾラが理論化

- ・ゾラ…自然主義を理論化、ドレフュス事件でドレフュス擁護し、「私は告発する」
『居酒屋』居酒屋に集うパリの下層民衆の生態を描写
- ・モーパッサン…フランスの作家で写実主義を確立したフロベールの愛弟子
『女の一生』不幸な女性の生涯を冷徹に描き出す
- ・イブセン…デンマークの作家で女性の解放を描く
『人形の家』夫の人形ではなく自立した人間たらんとして家を出るノラを主人公
- ・ストリンドベリ…『令嬢ジュリー』などで知られるスウェーデンの小説家・劇作家

美の形成と享受を最高の価値とし、芸術のための芸術を主張
自然主義に反対し、道徳的功利性を排除し、生活も芸術化

- ・ボードレール…アメリカの文豪ポーに影響を受けたフランスの詩人・美術批評家
『悪の華』 象徴主義の先駆、近代詩の出発点
- ・ワイルド…イギリスの耽美主義の小説家・劇作家
『サロメ』 預言者ヨハネの首を要求するヘロデ王の養女サロメに取材した戯曲
『ドリアン・グレイの肖像』 主人公の美青年ドリアンの代わりに肖像画が醜悪に

内面の情動を象徴（シンボル 鳩＝平和 など）を用いて表現
音楽的表現を重視し、20 世紀の現代詩の出発点となり、絵画や音楽にも影響

- ・ヴェルレーヌ…フランスの詩人で音楽的韻律の詩の技法を確立
- ・ランボー…フランスの天才詩人『イルミナシオン』『地獄の季節』
- ・マラルメ …ポーとボードレールの影響から出発し、フランス現代文学の先駆

現代文学

反戦・反ファシズムを主題とした文学で第一次世界大戦の反省が原点
自然主義に反発、人間存在の内面を問うドイツ表現主義などの手法

- ・ロマン＝ロラン…フランスの小説家で反戦・反ファシズムをつらぬく
『ジャン＝クリストフ』 音楽家の主人公の成長を描く教養小説・大河小説
- ・マルタン＝デュ＝ガール…フランスの小説家で『チボー家の人々』でノーベル文学賞
『チボー家の人々』 第一次世界大戦を描いた歴史小説
- ・トーマス＝マン…ドイツの小説家でナチスに反対してアメリカに亡命
『魔の山』 スイスの結核療養所を舞台に主人公の青年の成長を描く教養小説
- ・ヘルマン＝ヘッセ …ドイツの作家で叙情的内面的作風・一次大戦を批判しロランと交友
- ・ブレヒト…ドイツの劇作家でナチスに反対し亡命
『三文オペラ』 ジャズの楽団の起用と意図的な荒唐無稽の物語で、演劇の伝統を革新

現実を徹底的に否定しようとしたダダイズムから発展、シュルレアリスム
フロイトの精神分析学の影響を受け表層意識下の“無意識”を重視

- ・ブルトン…フランスの詩人・小説家でシュルレアリスム運動を指導。代表作は『ナジャ』
- ・アラゴン…共産主義に接近しシュルレアリスム離脱。人民戦線支持、レジスタンス参加

人間の内部の心理の動きや意識の流れに焦点をあて、その描写を主眼とする小説
フロイトの精神分析学とも呼応し、無意識の領域まで探査

- ・ジイド …フランスの作家で思想遍歴後、社会主義批判『狭き門』
- ・プルースト…フランスの作家で『失われた時を求めて』は心理小説の代表傑作
- ・ジョイス…アイルランドの作家で『ユリシーズ』で文体実験と言語技術の極致を示す

漸進的社会主義を主張するイギリスのフェビアン協会関係の作家
社会主義リアリズムを唱え、労働者の立場に立った創作を行ったソ連の作家

- ・バーナード＝ショー …イギリスの劇作家でフェビアン協会の創設に関与
- ・ウェルズ …『タイムマシン』などSF文学創始 フェビアン協会に所属し、文明批評
- ・ゴースキー…『どん底』で社会主義リアリズムを創始したソ連の作家
- ・ショーロホフ…『静かなるドン』ソ連の社会主義リアリズムを代表する作家

アメリカで第一次世界大戦に参戦し、幻滅した世代の作家

- ・ヘミングウェイ…『武器よさらば』一次大戦『誰がために鐘は鳴る』スペイン内乱
- ・スタインベック…『怒りの葡萄』農民の苦しい生活を描く
- ・フォークナー…『サンクチュアリ』架空の南部年代記

理性で捉えきれない人間存在の不条理を描写

実存主義の哲学の影響

- ・カフカ …『変身』実存主義文学の先駆とされる
- ・サルトル…『嘔吐』レジスタンスにも参加したフランスの作家・実存主義哲学者
- ・カミュ …『異邦人』人間の不条理を描いたフランスの作家

近代の科学

◎自然科学，実験科学の成果が技術開発に転用，第二次産業革命の背景に

- ・マイヤー，ヘルムホルツ…独，エネルギー保存の法則：内燃機関の発明に道
- ・ファラデー，マックスウェル…電磁気の研究：電動機・電信・電話・電気製品などの発明に道
- ・ヘルツ…独，ヘルムホルツの弟子でマックスウェルの電磁気理論より電磁波を実験で確認
- ・リービヒ…独，有機化学の基礎：化学肥料や，化学繊維の発明に道
- ・ソルヴェイ…ベルギー，化学でアンモニアソーダ法で炭酸ナトリウムを発生→ガラス工業
- ・レントゲン…独，X線の発見
- ・ダーウィン…英，1859年『種の起源』・進化論→社会進化論に影響
- ・メンデル…オーストリア，遺伝の法則
- ・パストゥール…仏，低温殺菌法→ワイン・乳製品の長期保存を可能に・狂犬病予防
- ・コッホ…独，結核菌，コレラ菌発見
- ・キュリー夫妻…夫仏，妻ポーランド，ラジウムの発見

近代の技術

◎科学の成果を応用，第二次産業革命の基盤，運輸と通信の技術革新は世界の一体化を推進

- ・ノーベル…スウェーデン，ダイナマイトの発明→ノーベル賞の創設
- ・モールス…米・自記電信機
- ・ベル…米・電話機→電話会社設立
- ・マルコーニ…伊・無線通信→通信会社設立
- ・エディソン…米・蓄音機，白熱電球，映写
- ・ディーゼル…独・内燃機関（軽油エンジン）
- ・ダイムラー…独・内燃機関（ガソリン機関）-自動車の発明→ダイムラー社発展
- ・ジーメンス兄弟…独・電気メッキ・電動機（電車）・ガラス製造→ジーメンス社発展
- ・クルップ…独・鉄鋼と大砲生産→一大兵器産業で死の商人
- ・ベッセマー…英・製鉄炉の新技術確立→独のクルップ社や米のカーネギー社に採用
- ・ライト兄弟…米・20世紀初に世界初の飛行機

経済思想

重商主義

国富の源泉を金銀とし、金銀獲得のため、産業・貿易への国家の保護・干渉を主張
初期の重金主義（直接的な金銀の獲得目標）から貿易差額主義へ移行

- ・トマス＝マン…英：東インド会社理事，貿易差額主義で輸出の奨励と輸入の抑制
- ・コルベール…仏：ルイ 14 世の財務長官，王立マニュファクチュアなど産業育成

重農主義

国富の源泉を農業とし，農産物の自由取引や農民の減税など主張
レッセ＝フェール（なすにまかせよ）を標語に重商主義による経済への政府の介入批判

- ・ケネー…仏：『経済表』を著し経済学の祖。ルイ 15 世の宮廷外科医
- ・テュルゴー…仏：ケネーの弟子でルイ 16 世初期の財務長官

古典派経済学

国富の源泉を国民の生産労働とし，重農主義から自由主義経済の思想を継承
イギリス中心で商品交換と分業を理論化

- ・アダム＝スミス…英：ケネーなど重農主義者と交流し，古典派経済学創始
『国富論』『みえざる手』と市場経済を評価，分業による生産効率上昇を主張
- ・マルサス…英：食糧生産重視の視点から穀物法に賛成
『人口論』食糧生産と人口増の関係から貧困を説明
- ・リカード…英：国際分業を重視し，自由貿易を主張，穀物法に反対
『経済学及び課税の原理』商品価値を労働量に求める労働価値説はマルクスに継承
- ・J. S. ミル…英：功利主義者。コントの実証主義を導入し古典派経済学を大成

歴史学派経済学

イギリスの古典派経済学（自由主義経済学）の自由貿易の主張に反対し，ドイツで提唱
民族の歴史的特徴と経済的発展の特性を重視し，後発国の保護貿易主張

- ・リスト…独：ドイツの国民経済確立を主張し，ドイツ関税同盟結成に尽力
『政治経済学の国民的体系』古典派経済学の自由貿易論を批判し保護関税を主張

近代経済学

1870 年代の限界効用説出現以降の，歴史学派経済学とマルクス主義を除く経済学の総称
経済学に数学的モデルを導入

- ・ワルラス…限界効用説で，一般均衡理論の体系を確立
- ・ケインズ…英：限度内での政府の経済への介入を認める修正資本主義を理論化
『雇用・利子・及び貨幣の一般理論』景気対策として公共投資を重視

歴史思想

19 世紀

ロマン主義による「民族」への関心を背景に「自国」の歴史研究がドイツ中心に発達

- ・ランケ…独：史料批判の方法論で近代歴史学を確立
- ・サヴィニー…独：普遍的なローマ法重視を批判し，法は民族固有として歴史法学主張
- ・マルクス…弁証法的唯物論による発展段階説と階級闘争史観が歴史学に影響

20 世紀

西洋文明中心史観や，歴史の直線的な発展史観に対する疑問

- ・シュペングラー…独：『西洋の没落』第一次世界大戦後，西洋合理主義への疑問
- ・アナル学派…仏：事件中心の歴史学に対して「社会史」の重要性，ブローデルら
- ・レヴィ＝ストロース…仏：『悲しき熱帯』文化人類学，構造主義

社会主義

財産権不可侵を前提に自由な経済活動による利潤追求を目指す資本主義経済が拡大すると、財産による新たな階級（クラス）の固定化など様々な問題が生じた。それに対し、資本主義が生み出した諸問題を、共同体重視の方法で解決しようとした諸思想の総称を社会主義と、ここでは仮に定義する。

空想的社会主義

自らを「科学的」と称したマルクス主義が、先行する社会主義の諸思想を命名
現実認識が不十分で理論は空想的であるとマルクス主義が批判したことが名称の由来

- ・ **ロバート＝オーウェン**…英：工場主として労働者の環境改善→米で共同社会建設の試み
一般工場法の成立や、労働組合、協同組合運動に影響を与える
- ・ **サン＝シモン**…仏：アメリカ独立革命に参加のフランス貴族。合理的産業社会を構想
実証主義のコントは弟子。スエズ運河建設のレセップスやナポレオン3世にも影響
- ・ **フーリエ**…仏：生産協同組合的組織による理想社会建設を提唱し、協同組合運動に影響

無政府主義

国民国家に対し、国家権力は必然的に個人を抑圧するものに転換するとしてこれを否定
国家権力を解体し、小共同体を基盤に相互扶助を原則とする理想社会の建設を主張

- ・ **ブルードン**…仏：「財産とは何か―盗んだものである」と定義し、政治的権威を否定
フランスの労働組合主義（サンディカリズム）に影響→アナルコ・サンディカリズム
- ・ **バクーニン**…露：マルクスと論争し、第一インターナショナル除名
ミール（農村共同体）を社会主義の基盤としたナロードニキに影響

マルクス主義

ドイツの弁証法哲学、フランスの社会主義、イギリスの古典派経済学を批判的に統合
階級闘争による発展段階説の歴史理論、自らを科学的社会主義と称する

- ・ **マルクス**…独：『資本論』でイギリスの資本主義の解明を目指す←リカードの影響
ヘーゲル左派のフォイエルバッハ（唯物論を主張）の影響で、唯物史観の弁証法哲学
1848年、エンゲルスと共に『共産党宣言』、第一インターナショナルの規約を起草
- ・ **エンゲルス**…独：マルクスの協力者『共産党宣言』（万国の労働者よ団結せよ）
- ・ **レーニン**…露：ボリシェヴィキの指導者、ロシア革命の中心
『帝国主義論』…帝国主義の原動力に独占資本主義段階の金融資本を想定
- ・ **ローザ＝ルクセンブルク**…ポーランド出身の女性革命家でドイツ社会民主党に参加
スパルタクス団の中心→1919年蜂起で惨殺、ボリシェヴィキの独裁体質を批判

修正主義

マルクス主義の革命論を批判し、議会主義による漸進的改革を主張
第一次世界大戦後、修正主義を含む漸進的社会主義は、社会民主主義の名称が定着

- ・ **ベルンシュタイン**…独：ドイツ社会民主党に所属し、革命を否定する修正主義を主張
左派のローザ＝ルクセンブルクなどと論争→戦後、修正主義は社会民主党の主流に
- ・ **ウェッブ夫妻**…英：社会学者で、イギリスの漸進的社会主義組織フェビアン協会の中心
- ・ **ジャン＝ジョレス**…仏：漸進的社会主義を説き、ドレフュス事件でドレフュス擁護
1905年のフランス社会党結成の中心、第一次世界大戦に反対し、開戦前夜に暗殺

フランスやオランダで発展、理性を信頼する合理主義を背景
数学的な**演繹法**を方法として重視

- ・ **デカルト**…仏：『方法序説』で演繹法を提唱「我思う、故に我在り」を、認識の出発点
デンマークに招かれ客死
- ・ **パスカル**…仏：数学で確率論、キリスト教信仰に立つ合理論を構想
『パンセ』…遺稿で、「人間は考える葦である」が有名
- ・ **スピノザ**…蘭：『エチカ』で汎神論を説く。ユダヤ人でユダヤ教会を破門
- ・ **ライプニッツ**…仏：数学で微分・積分の確立、单子論で宗教と科学の調和を目指す

ロジャー＝ベーコン以来の経験重視・実験重視の伝統を持つイギリスで発展
経験や実験・観察を重視し、**帰納法**を方法論として重視

- ・ **フランシス＝ベーコン**…英：『新オルガヌム』で帰納法の重要性を主張
ジェームズ1世の大法官も、汚職事件で失脚
- ・ **ホッブズ**…英：社会契約説の提唱者 哲学では唯物論を主張
- ・ **ロック**…英：認識の源泉を感覚と経験とする経験論哲学
- ・ **ヒューム**…英：『人性論』で懐疑論を展開 精神の实在を疑い、心を感覚の束とする

イギリス経験論と大陸合理論を批判的に統合したカントに始まる
フィヒテ以降、ロマン主義の影響を受け、ロマン主義哲学の傾向

- ・ **カント**…独：『純粹理性批判』などで批判哲学を展開
フリードリヒ2世と同時代人、生涯の大半を東プロイセンで過ごす
- ・ **フィヒテ**…独：カント哲学を継承、ナポレオン占領下のベルリンで「ドイツ国民に告ぐ」
- ・ **シェリング**…独：人間の自我と自然との根本的同一を説く同一哲学で、観念論を展開
- ・ **ヘーゲル**…独：『法の哲学』などでドイツ観念論哲学を大成
歴史の展開を絶対精神の弁証法的自己展開の過程と理解→マルクス主義に影響
- ・ **フォイエルバッハ**…独：ヘーゲル左派の哲学者で観念論を否定し、唯物論を主張
- ・ **ショーペンハウエル**…独：厭世哲学を提唱し、ヘーゲルを批判
世界の本質を盲目的な生への意志、インドのウパニシャッド哲学に影響を受ける

ヘーゲル哲学を批判し、一般的な世界の原理よりも個人の実存にとっての真理を重視
「世紀末」の不安な世相を背景に近代文明や科学主義への批判→実存主義哲学へ継承

- ・ **キルケゴール**…デンマーク：『死に至る病』主体的真理の尊重
神の前に直面する単独者としての人間を重視
- ・ **ニーチェ**…独：『ツァラストラはこう言った』権力への意志を重視→超人哲学
「神は死んだ」と宣言、能動的ニヒリズムの主張

生の哲学

科学的合理主義を批判し、流動的な生きた現実を認識の出発点、仏：ベルグソン

ヘーゲル哲学を批判し、一般的な世界の原理よりも個人の実存にとっての真理を重視
「世紀末」の不安な世相を背景に近代文明や科学主義への批判→実存主義哲学へ継承

- ・ **ヤスパース**…独：神を認める実存主義、限界状況を克服し、他者との交わり
- ・ **ハイデッガー**…独：『存在と時間』神を認めない実存主義、ナチスに協力
- ・ **サルトル**…仏：『存在と無』実存主義文学を確立、アルジェリア独立運動など支援
- ・ **ボーヴォワール**…仏：『第二の性』「人は女に生まれない、女になっていく」

幸福（快樂）を人生の目的とし、社会全体の幸福（快樂）の追求を目指す
資本主義体制が確立したイギリスで、「公共善」をめぐる議論から出現

- ・ **ベンサム**…英：功利主義を確立、「最大多数の最大幸福」の実現を政治の目的とする
政治家としても活躍し、第一次選挙法改正に努力
- ・ **J. S. ミル**…英：功利主義を転換し、量よりも質を重視、古典派経済学も大成
「満足した豚であるよりは不満足なソクラテスである方がよい」

人間の社会的共同生活の構造や機能について研究

- ・ **コント**…仏：経験によって確かめられた事柄にのみ知識の源泉を見出す実証主義哲学
科学万能の世相を背景、**社会学**の祖
- ・ **スペンサー**…英：功利主義と進化論を結合し、社会進化論（社会ダーヴィニズム）提唱
俗化されて広がり、白人優越思想やナチスの優性論、アメリカの拝金主義に影響
- ・ **マックス・ヴェーバー**…独：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
資本主義の源流にカルヴァン主義を置く、社会学・政治学・経済史学に貢献

西欧の伝統的学問体系では、現代社会の複雑な諸問題の解決は困難と主張
人生に対する実用的な価値のみを真理とする。実用主義。アメリカで発展

- ・ **ジェームズ**…米：真理は有用性において決定されるとし、プラグマティズム確立
- ・ **デューイ**…米：知性は問題解決のための有用な道具であらねばならないと主張
教育学者としてプラグマティズムを教育に応用→小学校の「生活科」の源流

現代の諸科学

◎精神分析学…人間の「無意識」探求

- ・ **フロイト**…オーストリア、精神分析学創始、「無意識」の発見、ナチスに迫われ亡命
- ・ **ユング**…スイス、人間を外向型と内向型に分類・集団無意識

◎文化人類学…人間を文化・社会の面から実証的に研究

- ・ **レヴィ＝ストロース**…構造主義的人类学

◎物理学…アインシュタインの相対性理論→核開発に道

- ・ **アインシュタイン**…ナチスにより亡命、第二次世界大戦後、ラッセル（英哲学者）と反核運動

◎医学・生物学…DNA解析などで生化学、分子生物学も発展→医療倫理の問題も

- ・ **フレミング**…最初の抗生物質であるペニシリンの発見

美術史

古典主義

ギリシア・ローマを古典として規範とし、形式美（様式美）を追求、歴史・神話など題材
18 世紀末より 19 世紀末まで画壇の中心、絶対王世期と区別して新古典主義とも呼称

- ・ **ダヴィッド**「ナポレオンの戴冠」…フランス革命に参加、「書斎のナポレオン」など
- ・ **アングル**「トルコ風呂」…女性美を追求、オリエンタリズムの作風
- ・ **ゴヤ** …スペインの宮廷画家、ナポレオン軍の侵入に「1808 年 5 月 3 日」

ロマン主義

古典主義の形式を批判し、個人の感性の解放主張、現実の事件など題材
19 世紀前半、文学のロマン主義の思潮とも連動

- ・ **ジェリコ**「メデューズ号の筏」…実際にあった海難事件を題材、ロマン派創始
- ・ **ドラクロワ**「シオの虐殺」…ギリシア独立戦争の支援を訴え
「民衆を率いる自由の女神」…フランス七月革命を題材

自然主義

自然風景をありのままに描写、ミレーなどバルビゾン派が、農村風景画
19 世紀中頃、文学の自然主義運動とは別なので注意

- ・ **コロー**…フランス風景画の始まりを告げた画家
- ・ **ミレー**「晩鐘」「落ち穂拾い」…パリ近郊バルビゾン村の農村風景を題材

写実主義

伝統絵画（古典主義）の様式性を批判し、社会の現実の描写を主張、労働者も題材
19 世紀中頃、産業革命による社会の変化なども背景、文学の写実主義とも連動

- ・ **ドーミエ**…ルイ・フィリップに対する政治風刺画で名声
- ・ **クールベ**「石割」「オルナンの埋葬」…パリ・コミュンにも参加
- ・ **ロダン**「考える人」…写実的な彫刻で人間の内面を描写

印象派

ルネサンス以来の遠近法を相対化し、主観的・感覚的表現を模索、光の描写へ
19 世紀後半、浮世絵からも影響← 1867 年のパリ万博前後からジャポニズムの風潮

- ・ **マネ**「草上の昼食」「オランピア」…スキャンダラスな題材、印象派の先駆
- ・ **モネ**「睡蓮」「印象・日の出」…印象派運動を開始
- ・ **ルノワール**「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」…親しみやすい人物画
- ・ **ドガ**「踊り子」の連作など…一瞬の動きを描写、パステル画も有名

後期印象派

印象派の技法を継承しつつ、自然や物体の根源的形態の把握を追求
19 世紀末、現代絵画に大きな影響

- ・ **セザンヌ**「サン・ヴィクトワール山」…形態追求で、現代絵画の出発点
- ・ **ゴーガン**「タヒチの女」…葛飾北斎の影響・日曜画家からタヒチに移住
- ・ **ゴッホ**「太陽」「ひまわり」…オランダ人で強烈な色彩

新芸術

アール・ヌーボー 19 世紀末から 20 世紀初期にかけて流行の装飾様式で曲線や曲面多用

- ・ **ガレ**…アール・ヌーボーを代表するフランスのガラス工芸家
- ・ **クリムト**…オーストリアのアール・ヌーボーを代表する画家、装飾画家

野獣派

20 世紀初期、大胆な形態の単純化と強烈な色彩が特徴、フランス中心

- ・ **マ蒂斯**「ダンス」…ピカソと共に 20 世紀絵画を代表
- ・ **ルオー**…聖書を題材に現代宗教絵画の巨匠・ステンドグラスの技法

立体派

20 世紀初期、立体の組み合わせで形態を表現（セザンヌの影響）、フランス

- ・ピカソ「ゲルニカ」…スペイン出身でスペイン内戦に際し、「ゲルニカ」を描く
- ・ブラック…野獣派から出発・ピカソと共に立体派（キュビズム）創始

ダダ

第一次世界大戦中から戦後にかけてヨーロッパ各地で、既成の芸術の急進的な破壊

- ・デュシャン…既存の便器に署名し展覧会出品、芸術創造の意味を問題に

超現実主義

フロイトの「無意識」説の影響、フランスの詩人ブルトンが理論的指導者

- ・ダリ…スペインの画家で超現実主義（シュルレアリスム）絵画の代表者
- ・エルンスト…ドイツ人・ダダから出発し、コラージュ技法を開発

音楽史

バロック音楽

17 世紀初めから 18 世紀中葉の西洋音楽の総称で劇的表現が特徴、オペラの原型、器楽成立

- ・バッハ（1685-1750）…ドイツの音楽家、教会音楽や器楽曲を多く作曲
「音楽の父」で一族に多くの音楽家を輩出でも有名
- ・ヘンデル（1685-1759）…ドイツ出身でイギリスで活躍、オペラなど劇場用音楽
「音楽の母」

古典派音楽

1730 年代から 1810 年代の西洋音楽の総称、ウィーンを中心に展開

- ・ハイドン（1732-1809）…オーストリアの作曲家、多くの交響曲、弦楽四重奏曲を作曲
「交響曲の父」
- ・モーツァルト（1756-1791）…オーストリアの作曲家、軽快で優美
幼少時より神童と賞賛、ヨーゼフ 2 世時代のウィーンで活躍
- ・ベートーヴェン（1770-1827）…ドイツの作曲家、古典派音楽を集大成
ロマン派音楽に道を開く、政治的には自由主義者
交響曲「英雄」は本来ナポレオンに捧げるため作曲されたと言われる

ロマン派音楽

1800 年代初頭から 1900 年代までの、古典派音楽と近・現代音楽の間の時代の傾向

- ・シューベルト（1797-1827）…オーストリアのロマン派音楽家で近代歌曲の創始者
- ・シューマン（1810-56）…ドイツのロマン派音楽家で近代的ピアノ技術を開拓
- ・ショパン（1810-49）…ポーランドのロマン派音楽家、「ピアノの詩人」、パリで活躍
七月革命の影響を受けたポーランド独立蜂起の失敗を知り、「革命」を作曲
- ・ワーグナー（1813-83）…ドイツのロマン派音楽家で楽劇の創始者
ドイツ民族主義に影響、ヒトラーも賞賛
- ・ヴェルディ（1813-1901）…イタリアの作曲家でイタリアオペラの形式を完成
「ナブッコ」はイタリア統一運動の象徴
「アイダ」はスエズ運河開通を記念して作曲
- ・スメタナ（1824-84）…チェコの作曲家でチェコ民族運動に参加、「わが祖国」

印象派音楽

19 世紀後半から始まり、現代音楽の源流の一つ

- ・ドビュッシー（1862-1918）…フランスの作曲家で印象派音楽を創始
「牧神の午後への前奏曲」

漢代までの文化

文化の特徴

黄土地帯に発生した黄河文明は、邑と呼ばれる集落での氏族共同体による共同農業を基盤としたものであり、宗族と呼ばれる血縁集団は、親族関係の秩序や祭祀のしかたを定めた宗法によって氏族のまとまりを維持した。社会関係の上下秩序も、血縁関係の上下秩序を反映し、礼と呼ばれる生活規範によって、維持された。周における封建制度も、このような氏族的な血縁秩序を前提としたものであった。

ところが、春秋時代中期以降、鉄製農具や牛耕の普及によって、小家族単位でも自立した農業経営が可能となり、氏族の統制がゆるんだ。また、生産性の向上によって商工業が盛んとなり、財力を蓄えた大商人も出現した。そのため、封建制度の基盤であった血縁的・世襲的身分秩序が動揺し、個人の能力が重視されて実力本位の風潮が現れた。戦争が続くなかで、富国強兵策をとる各国は、積極的な人材登用を行い、この傾向を助長した。

こうした社会変化に対し、新しい秩序のあり方を模索する思想家や学派が登場する。そして諸子百家と総称された彼らの中で漢代になって官学の地位を確立するのは、周代の血縁秩序を理想とした儒学であった。

諸子百家

世襲的秩序が動揺した春秋戦国時代に出現し、新しい社会秩序を模索した一群の思想家や学派を諸子百家と総称する。そのうち儒家が後世に最も大きな影響を与えたが、道家や法家の思想もその後の中国の社会思想の重要な源となっており、また論理学の名家や兵法の兵家、外交策を説いた縦横家など、多様な分野で思想学問の基礎が築かれた。

孔子を祖とし、家族道徳を基盤に社会秩序の再建を説く 西周の時代を理想
漢代に官学とされ、後世の諸王朝の権威の正統化にも寄与

◎孔子(前 551- 前 479)

- ・ 諸子百家のうち儒家の祖で家族道徳の確立から社会秩序の再建を展望
→修身・齐家・治国・平天下
- ・ 孝(親に対して)と悌(兄に対して)の実践で仁(いつくしみ)を完成
- ・ 西周の時代を理想とし、周礼・周制復活を目標

◎『春秋』…魯の年代記で孔子が編纂と伝えられ、儒学の經典に

◎『論語』…死後弟子がその言行を編纂したもので、朱子によって四書とされる

◎孟子(前 372- 前 289)

性善説と王道政治を唱える、易姓革命を理論化し、古代の理想の土地制として井田制紹介

◎荀子(前 298- 前 238 頃)

性悪説を唱え、礼による統治を強調→法家に影響し、門下に韓非・李斯

◎五經…漢代から儒学の經典

『春秋』…魯の年代記。注釈書(とされていた)に『春秋左氏伝』や『春秋公羊伝』

『書經』…堯・舜から夏・殷・周三代の帝王の事蹟を編纂

『詩經』…華北最古の詩集

『易經』…占いの書

『礼記』…礼に関する文献をまとめたもの

◎四書…宋代に朱子が重視

『論語』『孟子』『大学』『中庸』(「大学」と「中庸」は、『礼記』の一編)

道家	儒家の礼を人為的な虚礼として批判し、自然のままで作意のない無為自然を主張 魏晋南北朝の混乱期に流行し、清談の風潮や道教に影響を与える ◎老子（前 5-4C） 儒家の礼を排し無為自然を説いて、万物を貫く原則である「道」に従うことを主張 ◎莊子（前 4-3C） 世俗からの離脱を説き、自由に遊ぶ真人を理想
墨家	儒家の仁を差別的な愛として批判し、血縁によらない無差別の愛である兼愛を主張 非攻を主張し城郭防衛に活躍も、末期には一君万民による平和実現のため秦の統一に協力 ◎墨子（前 5-4C） ・兼愛説…仁を差別愛として批判し、血縁によらない無差別の愛を説く ・非攻…侵略戦争を否定し、小国家防衛のための軍事技術集団として活動 ・交利…相互扶助を主張 ・尚賢…下級の身分のものからも人材を登用することを主張
法家	法を基準に、信賞必罰による統治を主張した一群の思想家や政治家の総称 秦は商鞅や李斯など法家による改革を実施して中央集権化と強国化に成功 ◎商鞅（?- 前 338） 秦の孝公に登用・郡県制で富国強兵の改革・什伍の制（連帯責任制）による農民統制 ◎韓非（?- 前 233） 荀子の弟子で理論を確立も、弟弟子の李斯に暗殺と伝えられる ◎李斯（?- 前 210） 荀子の弟子で始皇帝に登用され、全国への郡県制の施行を献策、丞相となる
縦横家	弁舌の才を生かして諸侯に登用され、外交に活躍 ◎蘇秦（?- 前 317） 秦に対抗し、六国連合の合従策を説く ◎張儀（?- 前 310） 秦と六国が個別に連合の連衡策を説き、合従策を破る
名家	名前（名）とモノ（実）との関係を追求した論理学の一派 ◎公孫竜（前 320 頃 - 前 250 頃） 記号論（意味論）的立場で、白馬と馬の違いを論じた白馬非馬論で有名
兵家	用兵を論じた兵法家・軍学者の一派 ◎孫子・呉子など
陰陽家	天地万物を陰と陽に分け、その根本を五行とし、世界のなりたちを説明 ◎鄒衍（前 305- 前 240） 陰陽説と五行説を統合（陰陽五行説）し、五行説によって王朝交替も説明
農家	国の根本を農業とし、君主も人民もともに農耕すべしと主張

漢代の儒学

公羊学

『春秋』の伝のうち『公羊伝』を重視し、孔子の思想を拡張解釈→清末に流行

◎董仲舒（前 176- 前 104）

◎公羊学開始、武帝に献策して**儒学の官学化**の契機をなしたことで重要

訓詁学

経書の字句の解釈を重視し唐代まで儒学の主流→清の考証学によって再評価

◎鄭玄（127-200）

後漢末に訓詁学を確立し、後世に大きな影響 党錮の禁に連座し、在野の学者として活動

漢代の宗教

太平道

後漢末に張角が符水と呪文による病氣治療を行い創始。**黄巾の乱**を開始

◎張角（？ -184）

太平道を創始し、漢にかわる王朝の建設を唱え信者に黄色の頭巾をかぶせ 184 年黄巾の乱

五斗米道

別名天師道。後漢末に四川地方で創始の道教の源流の宗派で祈祷による病氣治療を行う

◎張陵（？ -184）

五斗米道を創始。後世天師と称される。入門者に米五斗を出させたことから五斗米道の名

仏教

1 世紀頃西域より伝わるも、漢の思想統制と仏典の翻訳困難で一般には普及せず

文字の歴史

殷

甲骨文字…占卜の内容を亀甲や獣骨に刻んだ文字で漢字の元、金属器に刻んだ文字は金文

秦

篆書…秦までの漢字の書体の総称で、秦による文字統一の書体を小篆と称す

漢

隸書…漢の正式書体で、当初木簡や竹簡に記した

◎蔡倫（？ -121）

製紙法の発明者とされてきた後漢の宦官。現在では製紙法の改良・普及者とされる

◎『説文解字』 最古の漢字字書。字形による漢字分類の開始。後漢の許慎が著す

文学と歴史

文学

華北最古の詩集として『詩経』、江南の詩集として『楚辞』が編纂

◎『詩経』…五経の一。周代の黄河流域の詩歌を集めたもので、恋愛詩が約半分を占める

◎『楚辞』…江南最古の詩集で、編纂は漢代。楚の王族で憂国の詩人屈原の詩も所収

歴史

年代別に編纂の**編年体**と、帝王の年譜（紀）と人物の伝記（伝）からなる**紀伝体**の叙述方

◎『春秋』…五経の一。編年体で著された魯の年代記で、孔子の編と考えられた

◎『史記』…司馬遷の編。紀伝体を創始。伝説の黄帝から同時代の武帝までの歴史

◎『漢書』…班固の編。王莽時代を含む前漢一代の史書で、後世の正史の範となる

大唐西
京千

顏真卿

十七日
先書

王羲之

篆書

隸書

楷書

天地
天地
天地

魏晉南北朝と隋唐の文化

文化の特徴

魏晉南北朝期は分裂のと混乱の時代であり、社会不安を背景に人々は新たな価値観や宗教に救いを求めた。すでに後漢末の時代から、西晋の時代にかけて世俗を離れた清談が流行し、五胡十六国時代には、仏教が中国社会に普及した。北朝の始まりとなった北魏では、仏教に対抗して寇謙之が道教教団を確立した。ここに儒教・仏教・道教の中国3教が確立し、後の時代へと受け継がれていく。

江南地域は華北からの流入もあって人口が増大し、荘園の開発が進んだ。九品中正法によって門閥を形成した貴族は、荘園の経営によって富を蓄積した。その基盤の上に、江南には六朝文化と称される華やかな貴族文化が形成された。東晋では書聖王羲之、画聖顧恺之、田園詩人陶淵明が活躍し、後世に大きな影響を与えていく。また、6世紀なかばに突厥がモンゴル高原から中央アジアに至る地域を制圧して西アジアのササン朝文化圏と東アジアの中国文化圏を結び、イラン系のソグド人などが盛んに往来するようになったことで、南北朝から隋唐代の文化は、ササン朝文化の影響を受けることになった。

一方で、唐を中心とする朝貢冊封体制が東アジア地域に確立すると、各国からの留学生が長安に集い、唐の文化や制度の取得に努めた。ここに東アジア文化圏が成立する。

思想・宗教

清談

後漢末から西晋にかけての社会の混乱を背景に、老莊思想の影響を受けた脱俗の談論

◎竹林の七賢

阮籍や嵇康など、魏から西晋への転換期に世俗を離れ、墮落した儒教の礼教主義を批判

儒教

後漢以来の訓詁学が中心も、魏晉南北朝期には一般には不振

唐代には『五經正義』による解釈の統一が、学問としての固定をまねく

◎孔穎達 (574-648)

唐の太宗の命により顔師古らと五經の注釈書『五經正義』を編纂、『隋書』も編

道教

黄帝・老子を教祖とし、不老長生をめざす中国の宗教で五斗米道（天師道）がもと

陰陽五行説や老莊思想、神仙思想を加味し、北魏で寇謙之が教団を組織化（寺院＝道観、僧＝道士）

◎寇謙之 (363-448)

天師道を改革し、新天師道を確立。北魏太武帝の信仰を得て「三武一宗の法難」の最初の弾圧

仏教

4世紀に五胡十六国時代の華北で普及し、江南でも貴族社会に受容

中国僧の渡印によって教義研究も進み、やがて禅宗や浄土宗などの中国仏教も発展

【魏晉南北朝期】

◎仏図澄 ブドチンガ (? -348)

310年西域亀茲（クチャ）から訪中し、洛陽で布教、多くの仏教寺院を建立し道安など弟子を育成

◎鳩摩羅什 クマラジーヴァ (350-409)

亀茲の人で、仏典の翻訳に功績

◎達磨 ダルマ (5-6世紀頃)

インドのバラモンで6世紀初頭来中し、中国に禅宗を伝えたと言われる

◎慧遠 (334-416)

東晋の僧。道安の弟子。鳩摩羅什と書簡によって意見交換。白蓮社を結成し中国浄土宗の祖師

◎法顕 (337-422)

東晋の僧。陸路グプタ朝チャンドラグプタ2世期のインドに赴き海路帰国『仏国記』

◎石窟寺院 敦煌（甘肅）・雲崗（平城付近・グプタ美術の影響）・竜門（洛陽付近）

◎南朝仏教 貴族の間に流行し、特に梁の武帝時に盛ん

【隋・唐期】

◎玄奘 (602-664)

- ・ 唐の僧。往復とも陸路でヴァルダナ朝ハルシャ・ヴァルダナ期のインド
- ・ ナーランダ僧院で学び、帰国後仏典の翻訳『大唐西域記』

◎義浄 (635-715)

- ・ 唐の僧。往復とも海路で分裂期のインドへ。スマトラ島シュリーヴィジャヤに滞在
- ・ 『南海寄帰内法伝』

◎中国仏教 念仏を重視する浄土宗と、座禅を重視する禅宗が中国で独自の発展

ゾロアスター教・ネストリウス派・マニ教・イスラーム教などが伝来

◎祆教 (ゾロアスター教)

イラン系ソグド人の交易活動での往来にともない、中国へは南北朝期に伝来

◎景教 (ネストリウス派キリスト教)

635 年ササン朝の僧阿羅本によって唐に伝えられる。8 世紀大秦景教流行中国碑を建立

◎摩尼教 (マニ教)

則天武后後に唐に伝わる

◎清真教 (イスラーム教, 回教)

中国に伝播したイスラーム教を清真教, モスクを清真寺と称す

魏晋南北朝期に発展した定型詩が唐代に大成

【魏晋南北朝期】

◎陶淵明 (365-427)

東晋の田園詩人で、官を辞して隠棲する時「帰去来辞」を著す。散文に「桃花源記」

◎謝靈運 (385-433)

南朝宋の詩人で山水詩の祖。東晋の名門出身で不遇の生活の後、謀反を疑われ刑死

【唐】

◎李白 (701-762)

玄宗の宮廷詩人で、詩仙と称された。奔放な詩風で酒を好み、奇行も多い

◎杜甫 (712-770)

詩聖。農民兵の苦難を描写する「兵車行」や安史の乱後を題材とした「春望」で有名

◎王維 (701-761)

詩仏。情景描写に優れ、詩中に画ありと賞賛。実際に画にも優れ、後世南画の祖とされる

◎白居易 (772-846)

玄宗と楊貴妃を題材とした「長恨歌」を著す

詩

六朝文化では技巧的な四六駢儷体が流行、唐後期より古文復興運動

◎昭明太子 (501-531)

梁の武帝の皇太子で、周から梁までの文章・詩賦の秀逸なものを集めた『文選』を編

◎韓愈 (768-824)

四六駢儷体を批判し、漢代の古文の復興を唱え、後世唐宋八大家に数えられる、仏教批判

◎柳宗元 (773-819)

中唐の詩人・文章家で韓愈とともに古文復興を唱える。唐宋八大家

文

東晋の王羲之の出現により、芸術としての書が確立

◎王羲之 (501-531)

東晋の書家で書聖。息子の王献之と楷書・行書・草書の書体を確立。「蘭亭序」

◎初唐三大家

欧陽詢・虞世南・褚遂良の三人でいずれも唐の太宗に仕えた

◎顔真卿 (709-785)

肉太で力強い書風、安史の乱で義勇軍を組織し奮戦

書

東晋の顧愷之が中国画道の祖

◎顧愷之 (501-531)

東晋の画家。画聖。「女史箴図」

◎閻立本 (?-673)

唐の太宗に仕えた唐初の画家・政治家。「歴代帝王図鑑」

◎呉道玄 (生没年未詳)

唐の玄宗に仕えた画家。山水画に新たな画風、速筆で知られる

◎李思訓 (651 頃 -718)

唐の玄宗に仕えた画家で、唐室の一族。山水画に優れ、細密な画風

◎王維 (701-761)

李白・杜甫に並び称される詩人。画では山水画に優れ、後世南画の祖とされる

画

その他

実用書

魏晋南北朝期，特に北朝において実用的な文化が生まれ，実用書が編纂

- ◎『傷寒論』急性の熱病への対処法を記した医学書。西晋で成立し漢方医学の聖典
- ◎『水経注』北魏の酈道元が著した歴史地理書。河川の水系ごとに古跡や伝承など地域を紹介
- ◎『齊民要術』北魏の賈思勰編纂の農書。古来の農業技術を集大成し，乾地農法についても紹介

日中交流

唐を中心とする東アジア文化圏が成立し，留学生などによって唐の文化が日本にも伝播

- ◎鑑真…唐から日本にわたり，戒律を授けた高僧
- ◎阿倍仲麻呂…唐の玄宗に仕えた日本からの留学生

宋・元の文化

文化の特徴

唐末五代の武断政治の混乱期に、魏晋南北朝以来の貴族階層は消滅した。宋代には文治主義のもとで新興地主(形勢戸)が、科挙の合格によって用役の一部を免除される特権を持つ官戸となることを目標に、士大夫(読書人)の中核を形成し、貴族にかわって社会の支配層を形成した。以後の王朝では、この士大夫層が文化の担い手となっていく。

宋代の文化は国際的な貴族文化であった唐代の文化に対して、中国的な特徴を強めた士大夫の文化であったことが特徴である。儒学では、訓詁学に代わって宇宙論を導入した宋学が台頭した。一方では、都市の経済的繁栄を背景に都市庶民を担い手とした詞や雑劇も流行した。

元代にはイスラーム文化圏と中国文化圏とともに支配したモンゴル帝国のもとで儒学は相対化されたが、宋代を継承した都市の繁栄を受けて、庶民文化はさらに発展した。また、宋代の三大発明(火薬・磁針・印刷術)や中国絵画の技術が西方に伝播する一方、イスラーム世界の数学や天文学の刺激を受けて授時暦が制定されるなど、文化的にも交流の時代となった

思想・宗教

宇宙の始まりを説く宇宙論など形而上学を儒学に導入し、実践倫理と結合

◎周敦頤 (1017-1073)

『太極図説』…陰陽五行説などを取り込み、太極説で宇宙論を確立→程頤・程顥兄弟に継承

◎朱熹 (朱子) (1130-1200)

- ・南宋の儒学者で宋学を大成し朱子学、理気二元説と性即理説を説く
- ・大義名分(君臣の別を強調)と華夷の別(中華秩序)を強調

◎四書(「論語」「孟子」「大学」「中庸」)を重視、「大学」と「中庸」は「礼記」の一編

◎陸九淵(陸象山) (1139-1192)

理気一元説と心即理を唱え、朱熹の主知的哲学に対抗

金支配下の華北で改革道教の全真教が創始、従来の道教は江南で正一教

◎全真教…王重陽が創始、迷信的な呪術を排し、儒仏道三教の一致を説いて道教を革新

金支配下の華北に広がり、元帝室の保護を受けて流行

◎正一教…全真教に対し、従来の道教(天師道)は江南中心に正一教として存続

白蓮教など民間信仰が発展、元代にはチベット仏教やカトリックも伝播

◎白蓮教…12世紀頃南宋で成立、浄土宗の影響を受け、当初は阿弥陀信仰

弥勒下生信仰に代わり、民衆に広がる→元末の紅巾の乱、清朝後期の白蓮教徒の乱

◎禅宗…臨済宗や曹洞宗が発展し、日本へも伝播、士大夫層中心に広がる

文芸

士大夫の教養として詩・書・画。文は唐代からの古文復興運動が完成

◎欧陽脩 (1007-1072)

宋代の唐宋八大家の代表で、古文復興を決定。紀伝体の史書の『新唐書』『新五代史』編纂

◎蘇軾(蘇東坡) (1036-1101)

- ・王安石の新法に反対し左遷、赤壁の戦いの地に遊び、「赤壁の賦」を著す
- ・文の名手でもあり、父の洵、弟の轍とともに八大家。他の二人は王安石と曾鞏

◎司馬光 (1019-1086) …王安石の新法に反対した旧法党の代表

『資治通鑑』前403年の戦国時代から、五代末までを編年体で著した歴史書

北宋の徽宗は画院を振興し、写実的で細密な院体画が発展、元代からは文人画が主流に

【院体画】

◎徽宗 (1082-1135)

- ・ 1127 年息子の欽宗とともに靖康の変で金に連行された北宋の皇帝・上皇
- ・ 画院 (翰林图画院) を振興し、自らも院体画の名手で風流天子と称された

◎夏桂 (生没年未詳, 12 世紀末から 13 世紀初めに活躍)

南宋後期の院体画の画家で、院体山水画に新境地を開く→日本の雪舟に影響

◎馬遠 (生没年未詳, 12 世紀末から 13 世紀初めに活躍)

南宋後期の院体山水画家を夏桂と代表、室町山水画の成立に影響

◎梁楷 (生没年未詳, 13 世紀初めに画院の最高位に登る)

南宋後期の画家で、山水画・人物画にともに秀でる

【文人画】

◎李公麟 (1049-1106)

北宋後期の官僚・文人画家。退官後、竜眠居士と号し、作画に専念

◎米芾 (1051-1107)

北宋の書家・文人画家。点描を用いた独自の山水画の技法を開発

◎牧谿 (生没年未詳, 宋末元初の 13 世紀後半に活躍)

南宋の禅僧・文人画家。日本で宋元第一の画家と高く評価

◎趙子昂 (趙孟頫, 1254-1322)

元の官僚・文人画家。宋の帝室の末裔、元代の文人山水画を開拓

◎黄公望 (1269-1354)

元末四大家の一。四大家中の最年長者で、50 才頃画作を開始、明清山水画に影響

◎呉鎮 (1280-1354)

元末四大家の一。一人、他の大家と交流を持たず地方の文人画家として生涯を送る

◎倪瓚 (1301-1374)

元末四大家の一。簡潔質素で、気品の高い画風

◎王蒙 (1308-1385)

元末四大家の一で明初まで活躍。趙子昂の外孫。倪瓚と対照的に複雑精妙な画風

都市の発展により、詞の流行。宋代の雑劇は元代の元曲に発展

◎詞…歌謡文学で、歌うことを前提とした楽曲の歌詞、婦女子にも流行

◎雑劇…宋代には風刺や道化、諧謔を主とする単劇や歌舞だったが、元代に歌劇として発展

◎元曲…元代に本格的な演劇として発展した雑劇で、北劇 (北曲) ととも称す

「西廂記」王実甫作、北曲の代表作、旧家の娘が親の決めた婚約者を拒否し書生と恋を成就

「漢宮秋」馬致远作、北曲、漢の王昭君が匈奴に嫁いだ故事に取材

「琵琶記」高明作、元末の作品で南曲の祖とも。一人の夫と、新旧二人の妻の夫婦愛

宋代の三大発明は、元代の東西交流で西方に伝播

◎宋代三大発明…火薬・羅針盤・活版印刷術

◎授時暦…郭守敬が、元代にイスラーム天文学、数学に刺激され作成→江戸時代の貞享暦に影響

明・清の文化

文化の特徴

明清期の文化も、宋以来の士大夫と都市庶民の文化の性格を継承している。特に明代後期になると、海外交易の活発化によって銀が流入したこともあって貨幣経済が進展し、都市には富裕な商人や郷紳が集まって庭園の建設や骨董の収集などの文化的生活を楽しみ、書・画・詩などの士大夫文化の担い手となった。また、木版印刷の普及によって書物の出版も増え、明代の四代伝奇小説や、清代の「紅樓夢」などの小説をより多くの人々が享受できるようになった。庶民の娯楽としての戯曲も、都市の繁華街で盛んに上演された。

思想面では、明代に官学となった朱子学への外的な学問研究重視の立場を批判して、心の修養を重視する陽明学が16世紀初頭におこり、庶民層にも広がったが、明末清初の動乱を経て、形而上学的な朱子学や陽明学を空論として批判し、事実に基づく研究によって現実社会の秩序回復を説く考証学が台頭し、清代の学者たちに継承されていった。事実重視の風潮は一方では科学技術に関する関心を高め、明末には『農政全書』『本草綱目』『天工開物』などの科学技術書が出版された。このような科学技術への関心は、明末清初のイエズス会宣教師によるヨーロッパ科学の紹介とも連動していたのである。

思想・宗教

陸九淵の心即理説を王陽明が継承し、知行合一を説く、明代に流行

陽明学

◎王陽明 (1472-1528) 『伝習録』…南宋の陸九淵の「心即理」説を継承

- ・本来人間が持っている善良な心にもどり(致良知), その判断に従っての行動(知行合一)を主張
- ・形骸化した朱子学を批判→学者のみならず庶民層にも受容されて広がる

◎李卓吾 (李贄) (1527-1602)

- ・陽明学左派で、心の最も純粋な部分を「童心」とし、尊重の一方、礼教主義を偽善として攻撃
- ・経書の重視を批判し、水滸伝などを称揚、獄中で自殺

経世致用(社会に役立つ)の学の意で、考証学の発展や技術書刊行の活発化につながった

実学

◎『農政全書』…徐光啓の撰、農政・農業関係の総合書

◎『本草綱目』…李時珍の著、本草(薬学)の総合書で、薬物とその処方を紹介

◎『天工開物』…宋应星の著、産業技術の図版入り解説書

◎『崇禎曆書』…徐光啓らがイエズス会士の協力で作成の暦書。清で修正され「時憲曆」として施行

明末清初に空理空論化した陽明学や朱子学を批判し、経世致用の学を唱え、実証研究を重視
清中期には清朝の思想弾圧で経世致用の学風を失うも、実証研究で歴史学や音韻学に成果

考証学

◎顧炎武 (1613-1682) …『日知録』実証主義による経世致用を唱え清朝考証学の基礎を築く
明の遺臣として清に仕えず、学問・叙述に専念

◎黄宗義 (1610-1695) …『明夷待訪録』君主専制を批判し清で禁書→清末変法運動に影響
東林派官僚の子として生まれ、復明運動に義勇軍を組織し参加、中国のルソー

◎王夫之 (1619-1692) …顧炎武・黄宗義とともに明末清初の三大思想家で、華夷思想を強調
郷里の湖南省の山中にこもり著述に専念

◎銭大昕 (1728-1804) …『二十二史考異』清朝歴史学の方法論を確立

◎戴震 (1723-1777) …『孟子字義疎証』考証学の泰斗で訓詁の学を重視

朱子学の理中心の哲学を批判し、人間の欲望を肯定する気の哲学を主張

◎段玉裁 (1735-1815) …『設文解字注』戴震の弟子で音韻・文字研究

公羊学

『春秋』の伝のうち、「公羊伝」を重視し、孔子の思想の拡張解釈を特徴とする学派

◎魏源 (1794-1856) …『海国図誌』海外諸事情の紹介で、幕末の日本で吉田松陰などに影響

公羊学に基づき経世を主張、林則徐の幕友でアヘン戦争にも参加し、晩年は太平天国とも戦う

◎康有為 (1858-1927) …『大同書』孔子を平等社会実現を説いた革命的思想家→変法運動

文芸

編纂事業

明の永楽帝期と清朝盛期に実施、士大夫（読書人）層の懐柔政策の側面もあり

- ◎永楽帝（位 1402-1424）靖難の役で即位したため、帝位篡奪の批判を懐柔する必要があった
『永楽大典』…一大類書（事項別に図書から記事を抜き取って説明した一種の百科事典）
『四書大全』…『四書』の注釈書。科挙の解釈の基準となる
『五経大全』…『五経』の注釈書。科挙の解釈の基準となる
『性理大全』…宋学の性理、理気の学説を集成
- ◎清の編纂事業…懐柔政策の一環
『康熙字典』…康熙帝期に編纂の漢字字典
『古今圖書集成』…康熙帝から雍正帝期に完成の類書、古今の図書から抜粋
『四庫全書』…乾隆帝欽定の中国文献一大叢書、清朝に都合の悪い書籍は禁書に指定

庶民文化

庶民の娯楽としての小説や演劇が発展

- ◎四大奇書…明代に成立した『水滸伝』『三国志演義』『西遊記』『金瓶梅』
『水滸伝』…元の施耐庵作を明代に羅貫中がまとめる。山東の梁山泊に拠る 108 人の豪傑
『三国志演義』…羅貫中作。三国時代を背景とした英雄豪傑たちの活劇
『西遊記』…呉承恩作。玄奘のインド旅行を題材に孫悟空たちの活躍
『金瓶梅』…万暦帝期。水滸伝中のエピソードをもとに豪商西門慶と毒婦潘金蓮の愛欲生活
→当時の急激な経済成長下の政治腐敗と富裕層の頹廃を活写
- ◎清代の小説
『紅樓夢』…曹雪芹作。貴公子宝玉と 12 人の美しい従姉妹が織り成す名家の栄枯盛衰
『儒林外史』…呉敬梓作。科挙の矛盾と読書人の腐敗墮落を風刺
『聊齋志異』…蒲松齡作。民間説話に取材した短編怪異小説集
- ◎戯曲
『牡丹亭還魂記』…明代の戯曲。湯顯祖作の恋愛伝奇劇
『長生殿傳奇』…清代の戯曲。洪昇作。玄宗と楊貴妃の恋愛を題材
『桃花扇傳奇』…清代の戯曲。孔尚任作。明滅亡時の史実に取材した文人と名妓の悲恋

美術

画

明代に南宗画（南画・文人画）の画法・理論が確立、職業画家の画法を北宗画

- ◎董其昌（1555-1636）…明の文人官僚で書家・画家として高名。南宗画と北宗画に絵画を大別
- ◎仇英（生没年未詳）…16 世紀前半に活躍し、美人風俗画などで高名。北宗画の代表とされた
- ◎八大山人（1626-1705）…明の王族。明滅亡後出家し後に還俗し 60 を過ぎ作画に専念。特異な画風
- ◎石濤（1642-1707）…明の宗室の一族。山水画に独自の境地を開いた清初南宗画の代表
- ◎カスティリオーネ（郎世寧 1688-1766）…乾隆帝に仕えたイエズス会士の画家、円明園設計に関

陶磁器

染付（青花）や赤絵（五彩）が景德鎮で盛んにつくられ、海外にも輸出

- ◎染付…白地にコバルトで絵付けし、焼きつけて藍色にしたもので中国では青花とよぶ
- ◎赤絵…白磁や染付に赤・青・緑・黒などのうわぐすり（珧瑁）で絵付けし、再び特殊な窯で焼いたもの

知識人階級である士大夫に布教するため、イエズス会士が西洋科学を紹介

- ◎マテオ＝リッチ（利瑪竇 1552-1610）イタリア出身、イエズス会による中国布教を開始
坤輿万国全図（中国最初の世界地図）作成、徐光啓を入信、『幾何原本』
- ◎アダム＝シャルル（湯若望 1591-1666）ドイツ出身、『崇禎曆書』、時憲暦の作成
- ◎フェルビースト（南懷仁 1623-1688）ベルギー出身、アダム・シャルルを補佐し暦法や大砲鑄造
- ◎ブーヴェ（白進 1656-1730）フランス出身、ルイ 14 世の命で派遣、康熙帝に仕え『康熙帝伝』
輿全覧図（康熙帝の命で作成の中国全土図）をレジスらと作成
- ◎レジス（雷孝思 1663-1738）フランス出身、皇輿全覧図作成に参加

